

## 2016.10.14：次世代育成調査特別委員会 本文

○菅原正和委員 きょうお話を聞かせていただいて、本当にありがとうございました。

私は若林区で、夢プラン21といひまして、子供の育成をやったりイベントをやっています、社会で子供を育てていくのは非常に大事だなという視線でいつも頑張っていたんです。私のやっていたイベントでこういう事例があったんですけども、実は子ども商店というのをやらせたんです。自由な発想で物を売っていいということで、大人のフリーマーケットみたいなんですけども、初年度は初めてやるものですから、子供も自信がなくやっていたんですね。お父さん、お母さんは絶対手出しをしてはだめですよ、私たちがアシスタントに入りますということで1年は終わったんです。2年目になったら、品物が売れるという学習効果が生まれて、いろいろな工夫をして自分でつくっていろいろなものを売り始めたんです。ところが3年目になったら、1人が社長という役をつけたんです、製品係とかなんかと。それで売上金を分配したんです。ところが、分配したときに均等に分ければよかったんですけども、社長だから取り分幾らとやったらいいんです。そうしましたら学校から苦情が来ました。私たちはそれだけ成長した姿が非常にすばらしいと思ったんですけども、学校からどういう苦情が来たかと言ったら、そういう格差をつけるといじめにつながると言われたんです。要は、学校と地域できちんとやっているのに、学校というのはどういう見方でそういうことを捉えてくれるのかなと非常に疑問に思ひまして、その翌年から、ここまで問題になるんだったらやめたほうがいいなということで子ども商店はやめたんですけども、でも子供のいろいろなことを伸ばしてやるというのは、そういう体験をしないことにはまず伸びないし、学校でそういう授業をやっちゃうと画一的で、独立性とか自由性とか比較力とか、そういうのが全然出てこないかと思うんですね。だからその辺で、今このように社会の中で生かすためには民間のそういう方も必要だと。そういうときにやっぱり一番ネックとなるのは、小学校の場合だと学校だと思ひんです。だから、そういう関係で、そういうときにどういうふうに形を構築したら一番いいのかなということをお聞きしたいんですけども。

○水谷修参考人 そうですよ。いや、私は学校と違うところで地域の中に用意しなければいけないと。非学校化ということが大事だと言ったら、学校と非学校、地域とどういう関係をつくっていくかと、そういう話ですよ。

さあ、困りました。学校はやっぱり画一化だから、いや、そうしないと学校教育はある種、成り立たないから、それはそれで大事なところで、地域と学校を切り離して子供の世界で何かつくれるかという、今のところつけれないわけだから、どこかで折り合いをつけるとなるとダイナミズムが生まれないという話ですよ。さあ、困りました。どうするんでしょうね。

○菅原正和委員 きょう私が一番感じたことは、社会の中で触れ合う場が非常に少ないんじゃないかな。接する場、大人に接する場、仲間に接する場、活躍する場ということで、場づくりがまず必要だ。場づくりがあったとしても、そこに誰が押し出してやるか、誰がそこで指導

するかがまず必要じゃないか。そのようなことは一番思いました。

今の子供が余りにも狭い世界で生きている。もっと広い視野を持つためには、そういうところにどんどん行かないと視野も広がらない。視野が狭いということは思考もどんどん狭くなっていくので、そういう感じで考え方も狭義になってくるということがあるので、広い考えを持たせるためには場づくり、どういうリーダーをつくっていくか、そういうことが行政にとっては必要じゃないかと、そのように感じました。